

3.10 研究推進部門

部門長 安井哲也

部門概要

(1)研究活動等の総合的な支援及び成果の社会展開

研究推進部門（平成 18 年 4 月設置）は、NICT 全体の研究支援を行う組織として、研究活動の周知的・支援的な業務を集約して効率的に支援を実施している。また、当部門は、産学官連携及び国際連携の総合窓口として機能し、研究活動において産学官及び海外の研究機関と円滑な連携が実現できるように、調整、支援に努めている。さらに、NICT の研究成果が社会経済の発展や国際的競争力強化に役立つよう、知的財産のライセンスや標準化活動を通じて、産業界への技術移転を推進している。

(2)研究推進部門のグループ構成

当部門の業務は次のグループ構成により実施している。

- ①成果発展推進グループ: 産学連携窓口、共同研究や受託研究の窓口・とりまとめ、外部競争的資金の獲得支援、研究成果のとりまとめ、委託研究など
- ②知財推進グループ: 知財戦略、業務発明認定、特許出願、知財権獲得、技術移転、無線局管理など
- ③国際推進グループ: 国際戦略、研究開発の国際連携支援、海外研究機関との研究協力・研究者交流、海外情報収集、海外組織運営など
- ④標準化推進グループ: 標準化活動の動向調査、標準化活動の支援、標準化活動の人材育成など

これら各グループでは各研究センター推進室とも連携した体制で、NICT が自ら行う研究開発や成果の社会展開の支援を行っている。

なお、海外組織として北米（ワシントン事務所）、欧州（パリ事務所）、東南アジア（バンコク郊外のアジア研究連携センター）に活動拠点を持ち、グローバルに活動する NICT 全体の国際窓口として機能している。各拠点においてはそれぞれの地域の研究機関との連携や情報発信、調査などを行っている。また、海外研究拠点としてバンコク郊外にタイ自然言語ラボラトリーを、またシンガポールに無線通信ラボラトリーを持っており、これらは、それぞれ知識創成コミュニケーション研究センター及び新世代ワイヤレス研究センターの研究分野の中で、海外で実施することが有効なテーマについて研究を行っている。

(3)研究開発に関する情報の収集と提供

当部門及び他の部署において取りまとめた NICT の研究開発に関する情報を成果管理公開システムにデータベース化し、検索、一覧を可能にするとともに、適宜、NICT Web サイトにより公開している。

主な記事

(1)毎年伸び続ける論文発信件数、標準化寄与文書件数

論文発表件数は、今中期計画の初年度から毎年件数が増加しており、平成 21 年度も前年を上回り、1,254 本となった。国際標準化についても、IEEE での活動を中心に 333 本の寄与文書を提出した。

(2)広く社会に役立つ研究成果の応用

NICT の基盤的・先進的研究活動からの成果を応用したさまざまな製品等が開発され、利用に供しているところであるが、平成 21 年度には、電波時計用リピーター、妊娠女性全身数値データなどが開発された。

(3)東南アジアとの研究交流のためのアジア情報通信技術フォーラム 2009 (AFICT2009) の開催

成長が著しい東南アジア国々の研究機関との交流を深めるとともに NICT の研究活動を国際展開することを目的として、新たに AFICT2009 を開催した。これまで、別の枠組みで行ってきた国際シンポジウムを発展させたもので、東南アジア 4 カ国（ベトナム、シンガポール、マレーシア、タイ）で開催した。今後も東南アジア地域の ICT 研究機関との国際連携を維持拡大していくことが重要と捉えている。

(4)海外からのインターンシップ研修員の受入れ

NICT が包括的研究協力協定を結んでいる海外の研究機関に在籍する優秀な若手の研究者や学生を、NICT の研究現場に一定の期間で受け入れるインターンシップ研修員制度を運用している。平成 21 年度には、合計 6 か国 12 名の研修員を受け入れて、関係機関との連携強化や研究活動の進展に寄与した。